

美術館の概要

1 名称

富山県水墨美術館

2 設置目的

日本の風土と伝統の中ではぐくまれた水墨画等の文化的所産を紹介し、もって県民の教養の向上と文化の発展に寄与する。

3 基本的理念・性格

(1) 日本文化の美を具現化する美術館

水墨画などを鑑賞する「場」とされてきた茶室、床の間など日本家屋の特徴的な生活空間を整備し、作品をその空間の中に展示することにより、失われつつある日本文化の美を再認識するのにふさわしい美術館とする。

(2) 美術文化交流の場としての美術館

県民と芸術家の美術文化交流の場として、また、富山県と国内外の地域との交流の場として活用することができる美術館とする。

(3) 自然と一体化した和風の美術館

静かな自然に囲まれた環境のもと、県民をはじめ、国内外の人がくつろぎとやすらぎを得られ、日本文化の精髓を感じ取ることができる和風の美術館とする。

(4) 県民に愛され親しまれる美術館

県民がいつでも、積極的に利用し、鑑賞できる場とし、県民の自発的な文化活動にインパクトを与えることにより、県民の生活や文化の向上を図る美術館とする。

(5) 日本文化の特質を世界に発信する美術館

屏風、襖絵、軸、巻物など、長い伝統の中で育まれてきた日本文化特有の美を有する作品の展示・調査研究活動を行うことにより、日本文化の特質を国内外に広く発信し、美術文化交流のネットワーク化を図る、世界に開かれた美術館とする。

4 展示活動

(1) 常設展示

「近代水墨画の系譜」

竹内栖鳳、横山大観、川合玉堂など近代の優れた水墨画を系統的に展示する。

また、本県ゆかりの簗牛人、豊秋半二など優れた水墨作家の作品を展示し、富山県と水墨画の深いつながりを紹介する。

「下保昭作品室」

本県出身の作家下保昭の初期から最新作に至る代表作品を紹介し、富山の風土に裏打ちされた個性豊かな画業を展望する。

5 教育普及活動

(1) 映像ホール

3面の白壁を利用した大型画面によるオリジナル・ハイビジョン映像等の上映。

オリジナル映像「水墨画の魅力」

・第1部（水墨画への誘い）

雪舟を中心に長谷川等伯や富岡鉄斎らの作品45点余りを収め、中国から日本に渡来した水墨画が日本独自の文化として育っていく、室町時代から江戸末期までの過程を紹介する。

・第2部（近代水墨画の創造）

水墨美術館の中心となる明治以降の水墨画の系譜をたどるもので、横山大観、入江波光、加山又造、下保昭らの代表作約20点が収録されている。

(2) 情報コーナー、図書室

美術解説ビデオ等の視聴、美術関係図書等の閲覧。

(3) 茶室（墨光庵）の活用

来館者に抹茶の提供を行う（有料）ほか、茶道愛好者の利用に供するため、茶室の貸出しを行う。

(4) 友の会活動

美術館の事業活動を支援するとともに、美術の鑑賞、学習、ボランティア活動を通じて、美術に対する関心と理解を深めることを目的として、友の会を設立。